

風物詩

早村 春鶴

舞鶴の風物詩なる上り築※（イサザ漁）
踊り食ひ有りと居酒屋春の宵
卒園児今日を限りと返事する
六甲の山並み低し春の雨
手土産に重なることも桜餅

春宵

一谷 春窓

春の宵久闊※を叙す二人連れ
腰おろす切株二つ若葉風
三重の塔暗がりの光苔
天竜の川音消せし春の雷
口ずさむ古きレコード昭和の日

卒業

山本 春英

卒業式終へて校門ふりかへる
春雨の果実をおとす激しさに
シクラメン鉢にあふれて咲きはこり
母よりも大きくなりて卒業す
春雨や昨日のことは忘れたし

春雨

森本 智子

下校児の声賑賑し牡丹の芽
春雨や肩かたすぼめたる辻地藏
青文字の花弾はじけたり山は春
写真機器担かつぎ琵琶湖へ卒業子
先駆けの蜂須賀桜咲き満ちて

盆梅展

坂井 白萩

盆梅の舞踊のごとく幹うねる
若き梅短かき枝の精一杯
山降りて鉢でおめかし盆梅展
開花して老梅の趣き何処へ
目を瞑つむり梅の香しかと確かむる

※築…川をせき止め、海を上ってくる
魚をとる漁

※イサザ漁…白魚の仲間です五、六センチ
チの透明な小魚のこと

※久闊…久しぶりのこと、文通もして
いないさま

※叙す…述べ表すこと

